

上尾中央総合病院版 経口Ca拮抗薬フォーミュラリー

【本フォーミュラリーは、成人の高血圧症に対する使用を想定している。】

推奨	第1推奨		第2推奨	
一般名	アムロジピンベシル酸塩	ニフェジピン(徐放CR)	ベニジピン塩酸塩	アゼルニジピン
標準的1日薬価 (ジェネリック医薬品換算)	10.1 円 (2.5 mg/日)	8.1 円 (20 mg/日)	10.1 円 (2 mg/日)	10.1 円 (8 mg/日)
効能・効果	①高血圧症 ②狭心症	①高血圧症 ②腎実質性高血圧症、 腎血管性高血圧症 ③狭心症、異型狭心症	①高血圧症 ②腎実質性高血圧症 ③狭心症	①高血圧症
用法	1日1回経口投与	1日1回経口投与	1日1回経口投与	1日1回経口投与
用量	1回2.5～5mg(最大:10mg)	1回20～40mg (最大:1回40mg 1日2回)	1回2～4mg(最大:8mg)	1回8～16mg(最大:16mg)
半減期(hr)	35.4±7.4(5mg)	-	1.70±0.70(4mg)	α : 1.3±0.2(8mg) β : 23.1±8.1(8mg)
特徴など	<ul style="list-style-type: none"> •L型Ca拮抗薬 •半減期、作用持続時間が長く、作用が緩徐であるため有用性が高く最も汎用されている。 •CYP3A4で代謝されるが影響は少ない。 •OD錠も発売されている。 	<ul style="list-style-type: none"> •L型Ca拮抗薬、CYP3A4で代謝 •同一成分に徐放Lもあるが強力な降圧効果の反面、徐脈などの副作用が起こりやすいため、徐放CRが推奨される。 •妊婦への適応(妊娠20週以降)あり。 	<ul style="list-style-type: none"> •L型だけでなくT型、N型も遮断するため、反射性頻脈が起こりにくい。 •CYP3A4で代謝。 •尿蛋白抑制効果が示唆されている。 	<ul style="list-style-type: none"> •L型だけでなくT型も遮断する。 •脈拍数を抑えるため頻脈傾向の患者への使用を推奨。 •CYP3A4で代謝(併用禁忌あり)